

議会のうごき

本町における今後の防災行政の取り組みを研修

市町村議会議員研修会

5月9日、県町村議会議長会主催による市町村議会議員研修会が、鹿児島市のウエルビュールかごしまで開催された。



想定を超える災害についての研修会

今回の研修では、東京大学大学院情報学環特任教授 片田敏孝氏による「想定を超える災害にどう向かい合えばいいのか」危機に主体的に備えるために」と題した講演と株式会社清友 代表取締役 宮之原明子氏による「女性活躍の成否のカギ」と題した講演が行われた。

県内事務調査

5月10日は、東串良町において、『津波避難タワー』及び『東串良町防災センター』の視察研修を行いました。当該施設は、今後発生が想定される南海トラフ地震や大規模災害への備えを目的として整備されたもので、地域住民の生命身体及び財産を守るために消防力の一層の向上が不可欠となっていることを踏まえて、一時的な避難はもとより、避難生活が長期化した場合などを想定し整備された施設であり、大崎町における今後の防災行政の取組みを進めるうえで参考になると感じた。



本町にも必要と思われる津波避難タワーを視察

また、今回の防災に関する研修や事務調査を終えて、防災や減災の取り組みについては、住民の生命及び財産を守る観点から行政が取り組むことは当然のことであるが、災害時においては、主体的な共助の体制の構築や、危険と感じたら住民が主体的に避難するような意識改革に取り組むことも重要であると感じた。

全国議長副議長研修会

平成30年度町村議会議長・副議長研修会が、5月28日、東京国際フォーラムホールAを会場に、『これからの町村議会を考える』をテーマに開催された。

研修では、山梨学院大学法学部教授 江藤俊昭氏による『町村議会議員の議員報酬のあり方 中間報告』と題して町村議会の議員報酬をめぐる状況と最近の動向について講演された。

○住民から議会は見えない。したがって議員報酬と定数削減の意識が強い。それに応える説明責任が求められる。

○報酬額と議員のなり手不足は連動しているが、議員報酬を増額するだけでなり手不足が解消するとはいえない。議会や議員の

関東大崎会

魅力を示さない限り、なり手不足も解消しないなどの講演がなされ、改めて住民の方々への説明責任の重要性と議会や議員の魅力を伝える大切さを痛感した。

6月3日、第20回関東大崎会交流・懇親の集いが、渋谷エクセルホテル東急で開催された。

当日行われた総会では、首都圏在住の関東大崎会会員をはじめ、鹿児島県東大崎事務所長など来賓を含め83名の参加を得て、議事も滞りなく進行し、盛会裏に終了した。議会から議長が出席し、本町の動きや議会の活動報告等を行うとともに、会員の方々と親睦を深めた。

本町への議会研修

●茨城県下妻市議会（6月25日）
資源リサイクルに関する研修のため、議員1名来町された。

●熊本県山江村議会（6月26日）
農林業振興の取り組み及び環境施策に関する研修のため、議員12名、議会事務局他1名来町された。